

ヤングケアラーの早期発見を

公明党
きむら はるえ
木村 晴恵



町長 中学生対象のアンケートを検討

問 ヤングケアラーとは、
「大人に代わって、毎日のように家族の世話や家事をする18歳未満の子供・若者のこと」である。今年1月の全国調査によると、世話をする家族がいる児童は、いない児童よりも欠席や遅刻、早退をする割合が高く、学業や健康への影響が懸念されている。子供が希望あふれる人生を描けるよう、地域においても着実に対策を進めるべきである。社会的認知度を高める広報や啓発は。



▲介護問題・ネグレクト・ヤングケアラー

答 6月1日から、「兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口」が開設され、電話・メール・LINEで相談ができる。播磨町では、福祉グループが窓口になり、障害福祉サービス事業所などへの周知を行っている。ホームページや広報紙などを活用し、相談窓口の周知を図っていく。

問 早期発見に向けた実態調査や、地域全体での見守りの連携などは。

答 地域福祉計画策定に向けて、今年度アンケート調査を実施する予定である。質問項目にヤングケアラーに関する内容を含むことや、学校現場と連携し、中学生を対象とした調査を行うことも検討している。

民生委員児童委員が見守り活動を継続して、地域包括支援センターや学校関係と定期的に情報交換の機会も持っている。

その他の質問
▼住民が集う公園の活性化を

子どもの異変への取り組みは

教育長 心のケアアンケートを実施

無所属
まつした よしき
松下 嘉城



▲子どもたちが意欲的に学べる環境を

問 コロナ禍が子どもの大きなストレスになっていることは裏付けられている。異変を見逃さない取り組みは。

答 児童生徒の状況を把握するため、心のケアアンケートを実施し、スクールカウンセラーなどが対応している。

問 長期化するコロナ禍で不登校の児童生徒は増加したのか。

答 不登校の児童生徒数は増加している。コロナ感染への不安などで出席を見合わせた児童生徒がいたことも原因の一つと考えられる。

小児接種率が低い要因は

町長 接種券の発行を申請制にしたこと

問 小児ワクチン接種率が県内で最も低い要因は。

答 加古川医師会が推奨した申請制による接種券の発行、接種会場が加古川市役所で距離があることが要因と考える。6月からは一市二町の13の医療機関での個別接種となり、町内の医療機関での接種も可能である。

ヤングケアラーの実態は

町長 相談を受けた事例はない

問 相談窓口や調査に関する専門的な職員の確保は。

答 ヤングケアラーの相談事例はないが、役場と関係機関が連携して対応する。現在、福祉グループに児童相談員2名と、学校にスクールソーシャルワーカー2名が配置されており、支援の必要な家庭に対応している。

ここを問う

6月7～8日の2日間、6人の議員が一般質問を行い、町政全般にわたり町当局の考えをたどりました。



一般質問とは、議員が町政全般にわたり、その執行状況または将来の方針に対する質疑、政策的提言などを執行機関に行うものです。

質問者	質問事項
1 公明党 木村 晴恵	(1) ヤングケアラーの実態は (2) 住民が集う公園の活性化を
2 無所属 松下 嘉城	(1) コロナ禍による学習意欲の変化は (2) 小児ワクチン接種は (3) ヤングケアラー支援に予算化を
3 政風会 岡田千賀子	(1) 共生社会の実現を目指して (2) 「書かない窓口」の導入を (3) 防災部の活動で地域を守る後継者の育成を
4 無所属 大北 良子	(1) 町内のWi-Fi設備の今後は (2) コロナ禍でのさらなる対策は
5 無所属 香田 永明	(1) 「安全安心なまち」見守りカメラは (2) 「播磨町可燃ごみ中継センター」有効活用を (3) スマートシティによる障がい者就業、高齢者就業、ひきこもり対策は
6 日本共産党 松岡 光子	(1) 家族介護助成金は (2) 水道料金改定は (3) 国民健康保険税均等割額減免拡充を (4) 生理用品のトイレ配置を